

「第2回山口・高知両県知事会議」

日時：平成29年4月18日（火） 15:00～16:00

（視察 16:00～17:00、記者会見 17:00～17:15）

場所：高知県立高知城歴史博物館

（司会）

それでは、ただいまから「第2回山口・高知両県知事会議」を開会いたします。

本日、進行役を務めさせていただきます、高知県総務部副部長の沖本でございます。よろしく願いをいたします。

まず、初めに、開催県の尾崎知事からご挨拶を申し上げます。

（尾崎知事）

それでは、第2回の山口・高知両県知事会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず村岡知事、そして山口県総務部長様を始め、皆様、遠路はるばるこの高知までお越しいただき、本当にありがとうございます。一昨年、この山口・高知知事会議をやるということで村岡知事からお声掛けをいただいて、山口県へお伺いさせていただきました。その際も、大変有意義な話し合いをさせていただいて、あのときのいろんな話し合いが今、薩長土肥連合を成すという形で生きてきているところです。さらに、防災面における両県の様々な交流にもつながってきており、本当に有意義な会議を持てたことに感謝をいたしております。

今日、第2回目の会議を、この高知で開催をさせていただくことについて、村岡知事におかれては、高知で財政課長をやられていたこともあって、高知県庁の職員一同、久々に村岡知事にお会いできることを大変楽しみにしておりました。

今、山口と私ども高知との間で大きなテーマとなっておりますのが、第一に観光面における協力を、平成の薩長土肥連合の取り組みなどを通じて更にどう進化をしていくか。特に来年は、明治維新150年の年ですので、そういう観点から更にどう深められるかということが一つ大きな課題だろうと思います。

もう一点が、防災上の対応ということになりますが、中四国知事会の中でも山口の皆様と、私ども高知はカウンターパートとして取り組みをさせていただいているところでありますが、更にどのような共同した取り組みができるか。そしてまた、これは別に山口・高知だけではないと思いますが、地方共通の課題といたしまして、人口減少下において、人口減少にどう対抗していったら、その中において地方の創生を成し遂げていくのか。これらの課題が、両県共通のものとしてあるだろうと考えております。

本日の会議は、短い時間でありませけれども、大きな課題である3点に絞ってしっかり

話合いをさせていただきたい。是非、有意義な話合いをさせていただければと思います。

この後、この歴史館を見ていただくことも含め、是非、久々の高知をご堪能いただき、有意義な一日にさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、続きまして、村岡知事からご挨拶をお願いいたします。

(村岡知事)

尾崎知事始め、高知県庁の皆さん、この度の会議の準備、大変ご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。

今、尾崎知事からもお話がありましたけれども、私は、以前、高知県庁で働いていたことがありまして、平成18年度に市町村振興課長を、平成19年度に財政課長をやらせていただいて、そのときに尾崎知事が就任をされたということでもあります。今日、ちょっと会場を見ても、当時一緒に働いたメンバーがいるものですから、今日は知事と知事というよりも、知事と課長のような感じがしております。

私も高知を離れてから、いろいろと仕事が忙しいこともあって、なかなか高知に来られず、実は高知に来るのは、本当に離れて初めてで、約10年ぶりということになります。土讃線に来て、高知駅に着き、本当にびっくりしました。まず銅像がどんと3つ建っていて、高知の魅力を発信する施設ができており、すばらしい勢いを感じました。私自身も、高知を離れて東京に住みながら、尾崎知事になられてから高知の情報発信がどんどん進んでいき、物産も高知のものがどんどん東京に出ていくのを感じておりました。

また、今回できたこの博物館は、山口でも報道されておりますし、雑誌などでもよく見ます。本当に、尾崎知事になられてからの高知の発信力がぐんと高まったな、すばらしいなと思って見ているところです。是非、山口県も見習って頑張っていきたいと思います。

今、尾崎知事からもお話がありまして、山口県と高知県は、薩長土肥ということで、共に明治維新の新しい時代を作ってきた歴史があるわけです。来年が明治150年、正にその年になりますので、これに向けて連携した取り組みも進めさせていただいておりますし、また、防災面、それから地方創生の面では、同じ課題を抱えながら連携しています。今日の会議でもいろいろと意見交換をして、新たな連携が一步でも進んで大きな成果につながっていけばいいと思っております。

そうしたことを通じて、山口県・高知県にとって、双方にメリットがある形での取り組みを進めさせていただいて、私自身もそういった形で、高知県に恩返しができるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、これより意見交換に入らせていただきます。

なお、本日の日程といたしましては、16時頃まで意見交換とさせていただきます。その後、視察を挟みまして17時以降、共同記者会見を設けさせていただく予定となっておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、以降は、尾崎知事の進行により意見交換をお願いします。

(尾崎知事)

それでは、村岡知事、よろしく願いをいたします。

それでは、今日の意見交換のテーマであります。次第でお配りをさせていただいておりますように、大きく3点。「地方創生の推進について」、そして「防災・減災対策の推進について」、そして3番目、「明治150年に向けた両県の連携について」ということでお話をさせていただきたいと思っております。

最初に、地方創生の推進。第1番目のテーマについて、意見交換をさせていただきます。まず、村岡知事から願いをいたします。

(村岡知事)

この地方創生は、大変重要なテーマでして、山口県の今抱えている課題、そして取り組みについて、少しご紹介させていただきながら、意見交換ができればと思っております。

まず、山口県の人口はピーク時、昭和60年に160万人いましたが今は140万人を切って、直近では139万人ということになっています。この人口減少を何とか食い止めなければいけないと、少子化対策にも力を入れております。出生率も若干回復してきつつありますが、問題は人口の流出の方です。山口県は、自然減もあるのですが、社会減が特に多い。今、直近で言いますと、平成28年で3,800人の社会減ということです。この数字は、中・四国の9県の中で一番多いということにして、そこに問題意識を持っているわけです。人口流出するのは、大体、進学時と就職時です。その中で、進学時についていいますと、もちろん地方のそれぞれの大学等が魅力をパワーアップしていく取り組みが重要なのですが、どんどん東京の大学の定員が増えているという状態があります。少子化も進んでいるのですが、東京の大学の吸収するボリュームが増えているということです。

そういった中で、私自身も問題意識を持って知事会にも提案をさせていただき、また、今、政府の方でも、首都圏での大学の在り方、あるいは、地方大学の振興について有識者会議が設けられています。そこに私も先日、全国知事会代表として機会を頂き、意見を述べてきました。以前は、工場等制限法という法律があって、首都圏での大学の定員を増やすというのは制限がありました。これが平成14年に廃止をされて、それからどんどん東京の大学の定員が増えているわけです。こういった制度を、もう一回しっかりと見直して、規制も含めてしっかりとやるべきじゃないか。また、地方の大学の活性化に向けた振興策も

講じるべきじゃないか。そういった話をさせていただきました。これから有識者会議で取りまとめをされ、政府としての方針が固まりますが、是非、尾崎知事ともしっかりと連携をして、国への働きかけを強めていければと思います。

そういった中で、山口県の地方創生についての取り組みを3点ほどご紹介させていただきたいと思います。

一つは、山口県は、人口流出が多いんですが、特に女性の流出が多いという問題があります。そういう中で、女性の活躍を促進していこうと、一昨年の4月に県と地元の金融機関や企業が出資をして、「女性創業応援やまぐち」という女性に特化して創業を支援していく株式会社を立ち上げました。ここは何をするかという、創業したいという女性の方からビジネスプランを募って、それを審査し、良いものを採択して資金を提供したり、あるいは金融機関が経営指導をしたり、販路の開拓を支援したり、そういったことを、コンサルティングも含めて行っているところです。

今までに、8つの創業が実現をいたしました。そのうちの1つは、山口ではお酒も元気なのですが、女性が高級な日本酒「夢雀」というお酒を造っております。これは今、ドバイ、香港、フランスなどで売られています。ドバイだと、1本4合で60万円です。結構な値段で売られています。国内でも売っておりますが、それは8万8,000円くらいです。非常に高級なお酒で、評価が高いです。そういった具体的に頑張る女性が実際に事業を立ち上げて、成長していくのを支援するということが実を結んできております。

そういった取り組みを、これからも続けて更に伸ばし、女性が創業するなら山口県というふうになればいいと思って頑張っております。

もう一つは、女性の活躍ということだと思いますと、私が高知県へ赴任し課長をやっているときには、同僚に女性の課長がいて、上司の副部長にも女性がいらっしゃいました。私が山口県で知事になったときは、実は課長以上、全員男性という状況でした。男女共同参画課長も、近年は男性が続いていたという、そういった流れの延長です。内閣府の調査の中で、女性の管理職の割合が全国一低いという不名誉な順位もあり、しっかり上げていこうということで、女性の管理職の登用も意識してやっております。私も高知県で経験したように、女性が課長や部長級にいても組織としていい仕事ができているわけですので、同じ県行政ですから、山口県ももっと女性の活躍を進めていかなければいけないと思っております。高知県は、県庁の中で女性が大変活躍していますが、県全体でも管理職の職業従事者に占める女性の割合が全国1位ということを知っております。そういうところについて、特別な取り組み等があれば、ご紹介いただければと思います。女性の活躍を促進する県にならないと、女性がとどまることがますます厳しくなると思いますので、その辺は力を入れてやっていきたいと思っております。

2点目が、県産品の売り込みです。尾崎知事になられてから、地産外商ということで、積極的に首都圏等でも売り込みを強化され、東京にいても、高知というのが目に入り、素晴らしい取り組みが進んでいると思っております。山口県も人口がどんどん減っていく中

で、地産地消も重要なんですが、それではどんどん市場が小さくなっていくので、首都圏や海外も含めて、もっと販路を開拓していかなければいけないと思っております。そういう中で、山口県の産品はどうしても多品種小ロットですので、それぞれが出ていくというのはなかなか難しい面があります。ここを何かサポートできないかということで、県としてもいろんな取り組みをしてきました。今般、地元の山口銀行が中心になって、民間での地域商社の設立という運びになってまいりました。ここでは、県産品のいろいろなブランディングによる高付加価値化や、中小企業から特にニーズが高い営業代行などを行うことで、今年度中に立ち上がることになりました。県としてもそこをしっかりとサポートしていこうということで、商品の開発やプロモーションを実施して、県産品の販路拡大に努めていこうと思っております。ここは是非、先に取り組みを進めておられる高知県からいろいろとご助言を頂ければと思っております。

最後3点目は、コミュニティ・スクールという取り組みです。これは、学校運営に地域の方々も関わっていく仕組みです。特に、子供たちに地域に愛着を持たせて、この地域で頑張っていこうという気持ちを育む上で、学校と地域がしっかりと連携して、子供の学びや育ちを支援する必要があると思います。山口県は、このコミュニティ・スクールが、私が3年前知事になったときには大体8割ぐらいの小・中学校でできていたわけですが、これをしっかりと伸ばしていこうと、昨年4月に市町立の全ての小・中学校で設置が完了しました。100%設置ということです。それぞれの学校で取り組みをしておりまして、例えばある学校では、保護者全員が学校に行き読み聞かせを順番にやるとか、その小学校を卒業した中学生が、夏休みや放課後にその小学校に通っている子供たちに勉強を教えるなど。あるいは、家庭科の授業であれば、子供たちの少人数のグループごとに食生活改善推進員の方が入って、教えていくなどいろいろな取り組みがございます。私も実際に学校へ行って、先生たち、あるいは地域の方たち、また子供たちの話を聞きました。そのコミュニティ・スクールがうまくできている地域は、子供たちが地域の方たちに感謝の気持ちや、地域の愛着を本当に強く持っています。子供たちの話を聞くと、いずれ自分もこの地域のために頑張りたいとか、自分もこのコミュニティ・スクールに大人になってからも関わっていききたいと、担う人間になっていききたいと、そういった声もあって本当にうれしく思います。私も東京で子供を子育てしていた時期もありますが、こういった仕組みは都市部だとなかなか難しいものがあると思います。地方だからこそ地域と学校がよい信頼関係を持つてできるという部分があるのではないかと思います。この仕組みを特徴として、更に山口県の中で伸ばしていきたいと思っております。今年度からは、小・中学校だけではなくて、高等学校や特別支援学校にも、そういったコミュニティ・スクールの仕組みを拡大していこうと思っております。そういったことを通じて、地域を支えていこうという人材を、子供の時期からそういった意識を育めればと思っております。

長くなりましたが、私から紹介させていただきました。よろしく申し上げます。

(尾崎知事)

どうもありがとうございます。山口県のいろいろ優れたお取り組みをご紹介いただき、本当に我々としても勉強になるところであります。村岡知事が全国知事会の中でも熱心に取り組んでおられる、いわゆる東京一極集中の是正の問題。東京都における大学の定員を野放図に増加させるという形でいいのかという問題意識、それに基づく様々な提言活動について、私ども高知としても大いに賛成でありますし、一緒に取り組み・提言などをさせていただければと思っています。

本県におきましても、人口ピラミッドの構成上、人口の自然減がしばらく続くことについてはやむを得ないにしても、人口の社会減をいかに押しとどめていけるかということは大きなテーマであります。かつて全国の景気がいいとき、高知から年間4,000人～5,000人ほどが流出をしました。今これが約2,000人となりとどまっているという意味においてはいいのかもしれませんが、まだまだ約2,000人も流出しているという現状は厳しいものだと思います。社会増減をプラスマイナスゼロ、均衡地点くらいに持っていけないか、さらに将来的にはプラスの方向に持っていけないかということで、今、努力をしているところです。これを実現していくためにも、一つには県としての努力が大事、そしてもう一つには先ほど知事が言われた、外的な環境として、日本全体として、東京一極集中への流れを強力に押しとどめるような仕組みが必要だろうと考えているところです。高知県として、この人口の問題も含め、県勢浮揚に向けてどのような仕組みを講じていくか。一つは、この人口の減少を押しとどめていくためにも、若者の定着をしっかりと図っていくことが大事。そして、併せて出生率を上げていくことが大事だと考えます。若者の定着を図っていくために経済の活性化を図る。先ほどおっしゃっていただきましたが、地産外商を中心とする産業振興計画の取り組みを進め、そこで作り出した雇用をベースとして移住促進、さらには若者の定着促進の取り組みを行う。もともと出生率の高い中山間地域においてしっかりと対策を講ずることで、全体としての出生率向上に資するような取り組みを行った上で、いわゆる少子化対策の一連の施策群を打っていく。大きくいうと、地産外商、移住促進、中山間対策、そして少子化対策。この4つの施策群により好循環をもたらせるように、今、一生懸命努力をさせていただいているところでございます。

そういう中で、地産外商の取り組みにしても、移住促進にしても、かつてに比べれば随分、一定の成果が現れてきました。例えば地産外商公社がお手伝いをして成約につながった契約の金額が、平成21年当時は178件でありましたけれども、これが平成27年度には6,555件。ものづくり地産地消・外商センターがお手伝いをした機械系の外商成約金額、平成24年度が2.5億円でしたけれども、これが28年度には、速報値で大体50.8億円という形で、全体として随分数字が伸びてきたと思っています。かつて高知は、全国がどんなに景気が良くなっても、高知だけ良くならないという時期がありました。平成12年から21年ぐらいまで、全国の有効求人倍率がどんなに1を超えても、GDPがどんどん上がっても、高知だけはいずれも低迷したままという時期がありました。こういう時期には、生産

年齢人口が減るに従って、いろんな生産量も合わせてもパラレルに減っていくという時期でありました。しかしながら、地産外商の取り組みが進むにつれて、生産年齢人口の減少によっても、いろいろな生産量はむしろ拡大の傾向に転ずるようになりました。人口減少によっても縮まない、そういう経済構造になりつつあるのだと考えております。

しかしながら、やはりそういう状況であったとしても、人口減少による下押し圧力というのは大きいわけであります。引き続き、この地産外商の取り組みを進めていながら、持続的に今後も継続していける施策を、今後も打っていかねばならないのだろうと考えているところです。今、有効求人倍率は1.17倍、これが4月分の数字で、過去最高値だったと思います。私たちは、最終的にこの状況をいかに継続していけるのか。もっと言いますと、そういう状況を通じて、若い人たちが地元に残っていけるような状況を作り出していけるか。特に中山間地域において、そういう状況を作り出していけるかどうか。ある意味、これからまさに正念場だと思っております。移住促進を通じた後継者の確保や、さらには地産外商の取り組みとして、点としてスタートしたものをいかに面に拡大していけるか、クラスター化を図っていくかなど、さらにはさきほど村岡知事からもお話がありましたけれども、起業や新陳代謝などをしっかり促進できるような施策を打っていけるか。こういうところに取り組むべく、当時、知事がおいでになられた頃は、これから作るのかと言っていたと思いますけれども、あの後作った産業振興計画も、今、第3期を迎え、一連の取り組みを全力で進めているところです。ただ、いかんせん、進学時における様々な人口流出の問題や、さらには全国の景気がいい中で、高知との格差が、給与面・待遇面などで残存している状況であるとか、そういうことなどを考えても、東京一極集中の流れそのものを大きくとどめるような施策というのはしっかり打つ必要がある。これはもう間違いのないことだろうと考えているところでもあります。是非今後とも知事会として様々な施策を考えて、展開をしていくことができればと思います。また、こちらの点もよろしくお願いを申し上げます。

ちなみに、女性の活躍促進で創業の取り組みなどされていることはすばらしいことだと思います。本県、幸い管理職とか起業家に占める女性の割合が非常に多いんです。もっと多くの皆さんにご活躍をいただきたい、そういう段階だと思います。また、私たちとしてもお知恵を賜れば幸いですと思っております。

最後になりますが、移住促進というのは非常に大事だろうと思っております。今、本県の移住者数が大分増えています。24年度が120組ぐらいでしたけど、昨年度は600組は確実に超えるぐらい移住していただけるようになってはいますが、人口の社会減問題などを考えるともっと拡大しないとイケません。若手の知事同盟でも一緒に取り組み・運動させていただいておりますが、田舎に向けて、この移住促進の取り組みが進むようなキャンペーンを、今後も是非、共同して取り組まさせていただければと思います。次の話題にもなりますが、これから特に幕末維新というのは若者たちの志ということで着目がされる、そういう時代が来るんだろうと思います。是非、両県で連携して、一緒に移住促進の取り組み

を、より一層盛り上げられればと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、2番目の防災・減災対策の推進について、お話をさせていただきたいと思えます。災害対策・基盤整備として、防災・減災対策の推進について、意見交換をさせていただきたいと思えますが、この件については、まず、私のほうから説明をさせていただきます。

本県では、南海トラフ地震対策として、命を守る対策に最優先で取り組んできた結果、現在、津波の避難路・避難場所、津波避難タワーなど、1,500カ所を超える箇所津波避難空間の整備が概ね完了している状況であります。また、応急復興活動の拠点となる総合防災拠点の整備や、道路が寸断された場合における早期啓開についての備えなどにも全力を挙げているところであります。昨年発生した熊本地震なども教訓とさせていただきながら更なる対策の強化を図っているところでございます。いざ南海トラフ地震が起こりますと、その状況をリアルに想定すればするほど、本県だけではなかなか対応できないというところがあります。やはり、全国的な枠組みの中でのバックアップをお願いすることが大事だろうと考えているところです。山口県さんとはカウンターパート制を中四国知事会の中で結ばせていただきました。このカウンターパート制について、平成27年度からは人事交流に応じていただいております。この点について本当に心から感謝を申し上げます。高知から山口に2名、そして山口から高知に2名の職員の皆さんにおいでいただきまして、相互に交流し、理解を深めていくということでありました。是非、今後ともこのような職員の交流などを通じて、このカウンターパート制が非常に実のあるものとなりますように取り組みを続けさせていただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。

第2点目。こちらは国に対する政策提言として、是非共同した取り組みを進めさせていただければと思う点であります。住宅耐震化の取り組みについてでございます。この住宅の耐震化を進められるかどうかというのが、ある意味災害対策の入り口になるだろうと思っております。住宅の耐震化が進んでいなければ、住宅が倒壊し、その場で圧死してしまうこともあるでしょう。更に言えば、その住宅が崩壊したことによって、逃げ遅れて津波で命を失うということもあるでしょう。その後の地震火災につながるということもございます。住宅の耐震化をしっかりとしていれば、これら一連のことを防ぐことができる。住宅の耐震化をするかしないかによって、後々につながる複合災害を防げるかどうかにも関わることになってくる。住宅の耐震化をしていなければ、倒壊によって、例えば後の仮設住宅づくりなどに膨大な工費を要するなどという形で、後の復旧・復興においても、スピードを大いに遅らせてしまうということになりかねない。あらゆる意味において、防災対策の入り口として住宅の耐震化をしっかりと進めていくということは大事だと思っております。しかしながら、ご案内のように、効果促進事業を活用しました住宅の耐震改修補助が間もなくできなくなります。経過措置を終了いたしますと、国の現行制度で現状並みの手厚い

補助を行うということがなかなか難しくなるということがございます。住宅の耐震化は震災対策の入り口だと、この入り口論を今後本県として声高に唱えてまいりたいと考えているところです。これを唱えることで、住宅の耐震化に対する国の取り組みをより一層本格的なものにすべく、今年度、大いに取り組んでまいりたいと考えております。この点についても、山口の皆様と連携をさせていただければと思います。

そして、国に対する政策提言という観点から、高速道路のミッシングリンクの解消ということについても、本当に大事なことだと思っています。私は今、全国高速道路建設協議会の会長をさせていただいて、全国的にもミッシングリンクの解消をというお話をさせていただいていますが、一言でいうと、津波がたくさん到来する区間ほどミッシングリンクが残っているという状況になっています。高速道路のネットワークがしっかりなければ、いざというときの復旧・復興のための具体的なプランさえもなかなか書きづらいという側面もあります。このミッシングリンクの解消に向けて引き続き大いに声を上げていく必要があろうかと考えているところであります。今年、震災対策関係では、この住宅の耐震化を大いに進めることと、ミッシングリンクの解消を引き続きということ、この2点が大きなテーマだと思っています。

是非、山口県と連携しながら、いろいろと提言活動をさせていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(村岡知事)

ありがとうございます。

熊本地震の話もありましたが、ちょうど1年がたったということで、山口県は中国地方知事会のメンバーでもありますが、九州地方知事会のメンバーでもあります。九州の応援体制の中で山口県もメンバーとして加わって、この復旧・復興の支援をしているところです。

九州地方知事会で、震災があったときにカウンターパート方式ということで、個別のメンバーの県に市町村を割り振って担当の市町村を決め、何々県はどどこ町を支援するという仕組みを、東日本大震災のときに作ったのですが、これを動かして支援を行いました。我々は地震のあった益城町のすぐ隣の御船町というところを支援させてもらいまして、人口が1万8,000人のところで、一時避難者が6,000人という、人口の3分の1が避難をするという状況でした。これまで大きな災害もなかったですし、町の職員も防災担当の職員が専任は2名だということと、4月の人事異動で替わったばかりということでした。これが一気に6,000人の避難者が出たということで、ほとんど機能するのも難しい状態になっていたわけです。ここをカウンターパートで決めて、直ちに山口県としても必要な職員を派遣し、サポートしたところです。今、御船町長さんから、山口県に来てもらって感謝の気持ちも伝えていただいたのですが、非常に有効に機能したと思っています。実際に熊本でも地震が起きたときには、県は県で大変で、なかなか市町村までいろいろな支援が

行き届かないということが、特に最初の段階ではあります。そこをカウンターパートとして決めることで、被害のない県が責任を持って市町村を支援できるということになります。特に大きい災害では相対的に被害が小さいところはどうしても手が届かなかったりするのですが、責任を持ってそれぞれ支援するという中で、空白の地域が生じないという、そういった漏れなく支援ができる仕組みだったことが大変いいと、私自身もやりながら感じたところです。九州地方知事会ではその仕組みがありましたが、中国地方知事会ではこれがなかったので、私は中国地方知事会にこの仕組みを提案して、中国5県でこのカウンターパート方式を導入することになりました。

また、四国地方でも同じように、個別に被災市町村を割り当てる方式を導入したと伺っておりますが、中四国のブロックの中でこの支援・受援マニュアルもできたところですので、この仕組みを入れていってはどうかと思っているところです。熊本の地震も踏まえて、我々も、自分たちの防災対策を昨年12月に見直しました。例えば、応援を受ける受援計画がないので、受援計画をしっかりと作るとか、被災市町村を支援するチームを作るとか、あるいは、避難所にする物資を一元的に管理するシステム、これは防災情報システムを更新するのに合わせて入れたわけですけれども、そういう対策強化も図ったところです。

そしてまた、これは別の角度と思われませんが、JAXA、政府機関の地方移転の中で、JAXAの西日本衛星防災利用センターが山口県に設置することが決まりまして、先般開設されました。ここで、県と山口大学、そしてJAXAで連携して衛星データの防災利用を進めていこうということで、今これを立ち上げて進めていこうということです。高知県におかれまして、平成22年にJAXAと協定を締結され、防災利用の実証実験に取り組まれているとお聞きしております。取り組み状況を参考にさせていただきたいので、またいろいろとご協議をいただければと思います。

それから、防災の関係で尾崎知事が言われたように、我々のカウンターパートということで、大規模災害の発生時に相互に支援する関係にありますので、是非、これからも様々な情報を共有して、いざというときに有効な形で運用されるようにやっていきたいと思っております。また、人事交流もお陰様で2順目に入りましたので、これからもお互いにいろいろな訓練に相互で参加するなど、情報交換をお願いできればと思いますので、よろしく申し上げます。

それから、尾崎知事からお話がありました住宅の耐震化の関係です。大変重要だと思っております。山口県も耐震化が進んでいなくて、もっと力を入れていかなければいけないと思っております。もっと言いますと、住宅だけではなくて、大規模建築物や防災上重要な建築物の耐震化も遅れていますので、住宅と同じように進めていきたいと思っております。国の制度の延長や拡充を共に訴えていければと思いますので、よろしく申し上げます。

高速道路のネットワークも、山口県もミッシングリンクが大変多い地域です。九州の熊本地震の前に東九州自動車道が完成をしていたので、九州縦貫自動車道が機能不全になっても代替機能が確保されていたということで、支援が円滑にできたという話もあります。

平時もそうですが、いざというときに機能する大変重要なネットワークですので、我々もその重要性を今回改めて認識したところです。私も高知県に赴任していましたので、高知のインフラの整備の必要性をよく実感しているつもりです。高知県、山口県、また中・四国全体でもミッシングリンクが非常に多い地域ですので、是非、力を合わせて国にしっかりとアピールをしていければと思います。いろいろな形で取り組みをお願いしたいと思います。

(尾崎知事)

大変心強いお話を頂き、ありがとうございます。

去年、全国知事会としては、この南海トラフ地震対策始め防災対策として、緊急防災・減災事業債の継続を、強くお話をさせていただきました。幸い各県が連携をした結果として実現をし、今後の防災対策の推進に大いに力になると思っております。今後、津波対策など各県非常に進んできている中において、全国的にもこの防災対策の一丁目一番地になっていくと思われますのが、住宅の耐震化を始めとする耐震対策だと思っております。残念ながら、個人資産の形成につながるのではないかという議論の下、なかなかこの住宅の耐震化に対する手厚い補助について理解を得られにくい側面があります。しかしながら、先ほど申し上げたように、住宅の耐震化を進めるかどうかということが防災の入り口になっているという意味において、非常に公益性の高い側面があるだろうと考えていますので、そういう点に力を入れて訴えていきたいと思っております。どうぞ一緒に連携させていただければと思います。

さきほどの被災地の市町村支援のありようにつきましては、両県間のカウンターパート制、これを具体的なものにしていくためにも、是非、事務レベルでの検討を深めさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

また、JAXAさんとの関係については、高知県も28年の16号台風で浸水被害のあった四万十川流域の衛星写真の提供を受けたりして、非常に有意義でした。是非、私どもの実証実験の結果特にJAXAさんとの取り組みなどもお伝えさせていただければと思いますので、是非協力させていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、3番目のテーマについて、観光振興の取り組みとして、この明治150年に向けた両県の連携について意見交換をさせていただきたいと考えております。

まず、私のほうから少しお話をさせていただきます。ご案内のように、今年が大政奉還から150周年、そして来年が明治維新から150周年という節目を迎えるということでありまして、本県ではこの3月4日から「志国高知 幕末維新博」を高知城歴史博物館をメイン会場として展開をさせていただいているところです。この高知城歴史博物館も開館1カ月少しでありますけれども、既に4万人を超えるお客様においでいただいております。県内にあります全部で23の会場で集計すると、もう20万人を超えるお客様に入っただき、本当に有り難く思っているところです。

そういう中、オープニングイベントには、山口県PR部長の「ちよるる君」にもおいでをいただき、イベントを盛り上げていただきました。本当にどうもありがとうございました。

この「志国高知 幕末維新博」の期間を通じて、県内各地域において、歴史資源と、自然と食を組み合わせた周遊ルートをしっかり作り上げていく。この歴史という観点からも本物の歴史を見ていただいて、そして、高知の本物の自然、そして食を味わっていただけるような、そういうコースを地域地域にしっかり作り上げ、結果として、本県の観光が県内全域に良き効果を及ぼすような仕組みを恒常的なものとして作り上げていければと考えております。そういう意味で、今年と来年、2年間通じて、この「志国高知 幕末維新博」の取り組みを進めていきたいと考えています。

また、こういう期間を通じて、子供たちにも是非、様々な歴史資源に触れていく中において、当時の若者たちがどういう志を持って取り組んでいったのかも学んでいただければと思っています。

この点、明治150年に向けて、政府に対して、明治維新150年のこの記念事業を展開していくべきだということ、村岡知事にリーダーシップをとっていただき、4県共同で政策提言をしてきたところでもあります。内閣官房に「明治150年」関連施策推進室を設置されることとなりました。村岡知事に心から感謝を申し上げたいと思います。

また、平成の薩長土肥連合でも一緒させていただいております。こちらの「薩長土肥スタンプラリー」の取り組みなど、非常に有意義であると思っておりますし、また、今年の10月、明治維新150年のフォーラムについてもご提案をいただいております。「薩長土肥会席プラン」の提供などによって、合同の民間主導の取り組みなども展開されております。この平成の薩長土肥連合の取り組みというのは非常に有意義だと考えております。来年、薩摩のほうでは大河ドラマ「西郷（せご）どん」の放映があつて、盛り上がっていかれることと思っておりますけれども、是非、今後とも4県連携しての取り組みを更に進めさせていただければと考えております。スタンプラリーや、具体的な取り組みにつなげていくことができると考えておりますので、良き形での連携を取らせていただければと思います。よろしく申し上げます。

4県でのこのような取り組みに加えて、山口と高知においても、更に進化ある取り組みを行うことができると思います。例えば、全日本空輸さんには、タイアップ企画として、「平成の薩長土肥割」という4県発着路線でのお得な運賃設定を3月からしていただくなど、民間の皆様のご協力も得て、薩長土肥連合を通じた旅客拡大の取り組みなどにもつながってきています。このような企画について、横展開ができないか。例えば、山口・高知でタイアップして行うことができないか、なども考えていければと思います。

本県であれば、「志国高知 幕末維新博」のPR隊があり、貴県におきましては「やまぐち奇兵隊」がおいでになります。こういうPR隊同士を相互に交流させていただくことで、メディアの皆さんに対してPRをしていくなどの取り組みもできるだろうと思います。

高知の幕末維新时期における脱藩第一号は吉村虎太郎であります。かの吉村虎太郎は長州

に行つて久坂玄瑞さんや、皆さんと話をしたことによつて大いに刺激を受け、「これからは土佐もこの一国勤皇では駄目で、やはり脱藩して新たな取り組みを進めていくべきじゃないか」と武市半平太に説いたと、そういう歴史的史実もあるようです。やはり、土佐の志士と長州の志士というのは昔から深い絆で結ばれております。大政奉還 150 年、明治維新 150 年のこの年において、4 県での連携、2 県での連携ということも大いに深めさせていただければいいと思つております。是非よろしくお願ひいたします。

(村岡知事)

ありがとうございます。

我々、自分たちの歴史を振り返るという意味でも、また観光の交流人口を増やすという意味でも、この明治維新から 150 年というのは本当に大きなチャンスだろうと思つております。やはり先人たちの「志」と「行動力」に学ぶところは、今の時代も大変多いものがあると思ひますし、この歴史、維新、それから明治期に大きく時代を変えていったこの歴史を我々自身が改めて学んで、またその魅力を発信して、観光の交流人口の拡大につなげていきたいと思ひます。そういう意味では、薩長土肥の 4 県の取り組みは、大事にしてしっかり伸ばしていきたいと思つております。

「志国高知 幕末維新博」は、私もオープニングをニュースや雑誌で見ることがありました。本当にすばらしい発信力で、我々も負けていられないなど、改めて気合を入れ直してやっつていこうとしてるところです。今年と来年が明治 150 年本番ということで、この 2 年間しっかりと連携した取り組みを進めさせていただければと思ひます。

山口県では、この 4 月から新しく「明治 150 年プロジェクト推進室」を設けて、「やまぐち未来維新」と銘打つて様々なプロジェクトを進めていこうとしております。その中で、例えば、新しい次代を担う若者への働きかけに重点を置いて、未来に向けて志を育んでいくための「若者『志』ミーティング」や、「大学生国際会議 in 山口」など、幾つかのプロジェクトを今年度新しく始めることにしています。この 4 県でもいろいろな発信ができればと思ひます。今、お話がありましたように、今年の 10 月、東京で薩長土肥フォーラムもありますし、それに併せて、都内にある 4 県ゆかりの地を巡るウォークラリーの開催を検討しているところですが、薩長土肥 4 県を大きく PR するチャンスですし、是非成功させていきたいと思ひます。

山口県の取り組みについて申し上げますと、今年は、四国の DC が正に真最中ですが、この 9 月から 12 月は、山口の DC を予定しております。「維新の風が誘（いざな）う。おもしろき国 山口」というキャッチフレーズで、山口の DC を行うわけですが、一つ、維新というのを大きなテーマにして取り組みをし、この期間だけは特別なイベントを用意しようと思つております。例えば、先般、世界遺産になりました「松下村塾」です。普通は、外から見るだけですが、この期間だけ特別に、吉田松陰先生が講義をした隣のところに上がった

り、松下村塾は松陰神社の中にあるのですが、その神社の宮司さんから、どうやって松陰先生が塾生たちと議論していたかという話を聞く特別講話などです。あるいは、山口は非常にお酒が伸びているのですが、「錦帯橋」を眺めながら、「地酒船」で楽しむなど、その期間だけの特別なイベントも用意をして、是非多くの方に楽しんでいただきたいと思っていますところでは。

今年のDCと、さらに来年は正に明治150年の本番であり、全国都市緑化フェアを山口県で開催することを決めております。これは来年の秋ですが、「山口から開花する、未来への種まき」ということで、明治150年の記念イベントの中核イベントとに位置付けております。『山口ゆめ花博』と呼んでおりますが、これ自体は秋の2ヶ月間開催するイベントですが、そのうち、日にちを決めまして、山口県としての明治150年の記念イベントを実施しようとしております。そのイベントに、調整をつけていただいて、尾崎知事始め、薩長土肥の知事に集まってもらって、イベントを盛り上げていただければとも思って、考えているところでは。また、そのゆめ花博自体もせっかくの機会ですので、各県からご協力いただければ、会場に薩長土肥のPRコーナーを設けるなどして、しっかりとPRができればとも思っております。今、尾崎知事からもお話ありましたとおり、2県の間でもいろいろな共同した活動が展開できればとも思っておりますので、お互いに知恵を出しながら取り組みができればと思います。

せっかく国でも明治150年の推進室が立ち上がりましたので、地方の我々の取り組みもしっかりと後押しをしてもらえるように、具体的な働きかけを連携してできればと思いますので、引き続き、よろしくお願いします。

(尾崎知事)

山口県で「明治150年記念イベント」が開催されるということは、本当に素晴らしいお話だと思います。是非、4県の知事でこのような関連のイベントに、相互に出席し合って盛り上げることができればと思います。また、高知で開催するときもおいでいただき、是非、相互に行き来ができればと思いますので、よろしくお願いいたします。

今、言われたお話の中で、明治150年の記念事業について、国のほうでもこれから具体的な準備がスタートしてくると思います。是非、薩長土肥連合においても政策提言もさせていただきます。お互いに、有意義な機会となりますように、その実現に向けて一緒にタイアップさせていただければと思います。そして、2県でも、そして4県でも相互のイベントをお互いにPRし合うなどという形で連携をさせていただければと思います。知事が村岡知事であられていることも含めて、いろいろな意味で山口と高知は、非常にご縁があります。是非、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、以上で意見交換を終了させていただきたいと思っておりますけれども、少しだけ時間が残っておりますので、両県のPR事項について、ご紹介をいただければと思います。

まず、村岡知事のほうから、どうぞよろしくお願いいたします。

(村岡知事)

今日は資料もいろいろとお配りをしております。先ほどのデスティネーションキャンペーンの関係はこういった形で載せております。裏に行きますと、例えばSL「やまぐち」号が新しい形で復活して、今年の9月に走り出すこととなります。また、豪華寝台列車の「瑞風」を、6月にJR西日本で走らせてもらいますので、こういったことも含め、山口の誘客にしっかり結び付けていきたいと思っております。あとは、ゆめ花博の関係は、こちらにチラシを入れておりますので、またごらんいただきたいと思っております。

ご紹介していませんでしたが、「サイクル県やまぐち」という取り組みを進めております。山口県は、本当に穏やかで美しい島々がある瀬戸内海から、荒々しい日本海まで、三方海に開かれています。それぞれが違った面を持っておりまして、すばらしい特徴のある景観がございます。これをもっと楽しんでもらおうと、日本もそうですが、今、アジアもサイクリングのブームがありまして、サイクリングを楽しんでもらえるように、しっかりと環境整備をしていこうと取り組みを進めております。例えば、サイクリストが休憩するサイクルエイドや、レンタルサイクルを常備したサイクルステーション、あるいは、新幹線のある新山口駅に、JRのご協力をいただき場所を貸してもらって、外から来た方が自転車を組み立てて、そこから自転車に乗って楽しめるサイクルピットなど、そういったことも県内の各地域、サイクリングに適した主要なコースで設置をしていこうと取り組んでおります。それから、シンボルイベントとして、プロのツアーを誘致しました。これは、簡単に誘致できるとは思っていなかったのですが、意外と簡単にできました。今年は県庁の前のパークロードを封鎖してやるレースも行います。それから、山口県は秋吉台のカルスト台地が非常にきれいな景観ですが、プロのレースの事務局からも、秋吉台でやらせてほしいというお話もあって、我々も観光面で、そういったところの方がもっとPR発信力がありますので、調整をして、今年、秋吉台でプロレースを実施することにしています。自転車道の整備など様々やっておりますし、また中国地方で、5県が連携したサイクリングルートの設定なども始めております。四国でもそういったコースを作っていこうという話もあるように伺っておりますが、是非、中・四国の中でも連携をして取り組みを盛り上げていければと思っております。そういった取り組みをこれからしっかり進めながら、観光もいろんな面があって、明治150年の歴史もそうですが、地方の持つそれぞれのすばらしい景観を楽しんでもらう、こういったスポーツを通じて楽しんでもらうということも、一つ大きな魅力になってくると思っております。山口県としても力を入れてやっていこうと思っておりますし、中・四国のエリア全体でもそういった楽しめる場所がたくさんあるということも、もっとPRできるよう、連携して発信できればと思っております。

私からは以上です。

(尾崎知事)

どうもありがとうございました。

私のほうからは、お手元に、「志国高知 幕末維新博」のパンフレットをお配りさせていただいております。来年は、龍馬記念館に新館が出来上がります。そちらを第2のメイン会場として、第二幕を開催するという予定をしております。

そして、「第10回高知国際版画トリエンナーレ展」。こちらのチラシもお配りしておりますので、是非ご覧をいただければと思います。世界レベルの版画を鑑賞できる機会はめったにありません。これを高知で展開し、ご覧いただければと思うところです。

それでは、こういう形で、今回、高知・山口両県知事会議を開催させていただきました。そろそろお時間も参ったようでございます。本当にどうもありがとうございました。是非、この後、高知城歴史博物館をご覧いただいて、貴重な幕末維新期の資料などをごらんいただければと思います。よろしく申し上げます。

今日は、どうもありがとうございました。

(村岡知事)

どうもありがとうございました。

(司会)

どうもありがとうございました。

以上をもちまして、第2回山口・高知両県知事会議を閉会させていただきます。